

## 新任保育者の早期離職に関する調査 II

—東海地区における調査結果報告—

庭野 晃子

The Research II about Early Departure from Their Job of Novice Teachers in Nursery Schools  
Report of Investigation in Tokai Area

NIWANO, Akiko

### 要約

本稿は、平成 26 年度科学研究費補助金（基盤研究 C：研究題目「新人保育士が直面する困難とその対応についての実態把握調査」）の助成を受けて行った調査の一部を報告する。今回は、静岡県、愛知県の認可保育園に勤務する、保育士となってから 2 年未満の新任保育者を対象とした質問紙調査の集計結果である。

### I. はじめに

保育士養成校を卒業した学生の多くは、理想と希望をもって保育園に就職し、一人前の保育士になろうと熱心に仕事に取り組んでいる。しかし、就職後、様々な事情により、早期退職を余儀なくされる保育士が少なくないのが現状である。全国保育士協議会（2009）の調査によると、卒業後に勤務した保育園を 1 年未満で離職した保育者は 4 人に 1 人以上、3 年後は約半数が離職している。

離職の要因は、多い順に「職場の方針に疑問を感じた」「職場の人間関係」「残業が多い」、「継続できない職場の雰囲気があった」「結婚」「出産・育児」「心身の不調」等があげられている。厚生労働省（2011）の調査では、離職の要因として「仕事が辛い」、「体調不良」、「人間関係」、「保育園の理念や方針への不満」等が挙げられており、とりわけ、若い年代に目立つ理由として、「人間関係」「理念・方針への不満」が他の理由より多い。

新人保育士は、職場における困難（例えば、人間関係、理想と現実とのギャップ、自身の技術力不足の認識等）を経験する方が多く、それに対処することが難しくなり早期退職に追い込まれるケースが少なくないことが分っている。また、新人保育士の早期退職は、本人のみならず、保育園の職員や保育園を利用する子どもや保護者にとっても大きなダメージであり、保育の質の低下が危惧される。

25 年度においては、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県認可保育園に勤務する新任保育者（勤務して 2 年未満の保育士資格を所有する方。以下「新任保育者」とする。）を対象に質問紙調査およびインタビュー調査を行い、職場で直面した困難と対応について明らかにした。26 年度は、東海地区で調査を行った。とくに待機児童が多い静岡県静岡市・浜松市と愛知県名古屋市の認可保育園に勤務する新任保育者を調査対象とした。前年度行った調査の課題をふまえ、調査の項目を若干修正して行った。以下、集計結果を報告する。

## II. 研究方法

方 法：郵送による質問紙調査（回答に要する時間 約 20 分、無記名）

対象地区：静岡県静岡市・浜松市、愛知県名古屋市

対 象 者：公立・私立認可保育園に勤務する新任保育者（保育者として勤務して 2 年未満の保育士資格を保有している方。）157 名。

質問項目：①基本的属性：年齢、居住地、勤務年数、保有資格等

②勤務する保育園について：保育園の所在地、勤務日数、労働時間、担当クラス等

③保育に関する意識：職場の人間関係、コミュニケーション、やりがい、就労意識、職場で直面した困難と対応等

調査時期：2014 年 10 月～2014 年 12 月

謝 礼：クオカード 500 円分

参加数：157 名

## III. 結果

質問紙調査 448 票を郵送し 200 票が返送され、そのうち 2 年未満の回答者は 157 票だった。有効回答票に限定した回収率は 35%であった。以下、質問紙票に記載した質問の順に結果を示す。

### (1) 回答者属性

#### 1) 性別

女性が 98.1%、男性 1.9%と、女性の回答者が圧倒的に多い。

| 調<br>査<br>数 | 男<br>性 | 女<br>性 |
|-------------|--------|--------|
| 157         | 3      | 154    |
| 100.0       | 1.9    | 98.1   |

#### 2) 年齢 平均 23.1 歳

20 歳以上 25 歳未満の方が 89.2%と全体の 9 割近くを占めている。

| 調<br>査<br>数 | 20<br>歳<br>未<br>満 | 20<br>歳<br>以<br>上<br>25<br>歳<br>未<br>満 | 25<br>歳<br>以<br>上<br>30<br>歳<br>未<br>満 | 30<br>歳<br>以<br>上 |
|-------------|-------------------|--|--|-------------------|
| 157         | -                 | 140                                    | 8                                      | 9                 |
| 100.0       | -                 | 89.2                                   | 5.1                                    | 5.7               |

### 3) 居住地（対象者が住んでいる地域）

愛知県在住者が 61.8%、静岡県在住者が 38.2%である。

| 調査数   | 愛知県  | 静岡県  |
|-------|------|------|
| 157   | 97   | 60   |
| 100.0 | 61.8 | 38.2 |

### 4) 同居人数 平均 3.8 人

一人暮らし（単身世帯）が 12.7%と全体の 1 割程度である。一方、2 人、3 人、4 人以上の世帯を合わせると 9 割近くであり、大半の方が家族等と同居している。

| 調査数   | 1 人  | 2 人 | 3 人  | 4 人以上 |
|-------|------|-----|------|-------|
| 157   | 20   | 9   | 30   | 98    |
| 100.0 | 12.7 | 5.7 | 19.1 | 62.4  |

### 5) 保育士資格を取得した方法

2 年制の養成機関で資格を取得した方が 45.2%、4 年制が 44.6%とほぼ同数である。国家試験取得者が 1.9%である。その他の 8.3%は、記述回答から 3 年制の養成機関であることが分かった。

| 調査数   | 養成機関<br>で取得<br>(2 年制) | 養成機関<br>で取得<br>(4 年制) | 国家試験<br>で取得 | その他 |
|-------|-----------------------|-----------------------|-------------|-----|
| 157   | 71                    | 70                    | 3           | 13  |
| 100.0 | 45.2                  | 44.6                  | 1.9         | 8.3 |

## 6) 保育園での実習回数 平均 2.2 回

保育士養成校では、通常、保育士資格を取得するための実習が 3 回あり、1 回目は保育園、2 回目は社会福祉施設、3 回目は保育園か社会福祉施設を選択することになっている。保育園での実習回数の平均は 2.2 回であった。実習回数 1 回が 11.5%、2 回が 67.5% と最も多く、3 回以上が 19.1%、0 回は 1.9% である。3 回以上の方については、自主実習や養成校に入学する以前の中学や高校での実習を含めていると思われる。0 回の方が 3 名ほどいるが、国家試験で資格を取得した方と推測される。

| 調査数   | 0 回 | 1 回  | 2 回  | 3 回以上 |
|-------|-----|------|------|-------|
| 157   | 3   | 18   | 106  | 30    |
| 100.0 | 1.9 | 11.5 | 67.5 | 19.1  |

## 7) 保育士資格を取得した年

2013 年と 2014 年をあわせると 90% 近くになる。保育士として勤務してから 2 年未満の方を調査対象としており、資格取得後すぐに保育園に勤務している方が大半と考えられる。一方、2011 年以前に資格を取得した方が 9 名いるが、資格取得後、保育士以外の仕事をしていたこと等が考えられる。

| 調査数   | ～2011 年 | 2012 年 | 2013 年 | 2014 年 |
|-------|---------|--------|--------|--------|
| 157   | 9       | 12     | 62     | 74     |
| 100.0 | 5.7     | 7.6    | 39.5   | 47.1   |

## 8) 保育士としての勤務月数 平均 12 ヶ月

6 ヶ月以上 1 年未満が 47.1%、次いで 1 年 6 ヶ月以上 2 年未満が 45.2% である。平均月数は 12 ヶ月である。6 ヶ月未満の 8 名と 1 年以上 1 年 6 ヶ月未満の 4 名は、年度途中で就職した方と思われる。

| 調査数   | 6 ヶ月未満 | 6 ヶ月以上 1 年未満 | 1 年以上 1 年 6 ヶ月未満 | 1 年 6 ヶ月以上 2 年未満 |
|-------|--------|--------------|------------------|------------------|
| 157   | 8      | 74           | 4                | 71               |
| 100.0 | 5.1    | 47.1         | 2.5              | 45.2             |

## 9) 保有資格

対象者全員が保育士資格を所有している。その他所有している資格として、幼稚園教諭Ⅰ種（77名、49.0%）、幼稚園教諭Ⅱ種（64名、40.8%）と約半数の方が保育士、幼稚園教諭の両方の資格を取得している。他に保有する資格は、社会福祉主事任用資格（7名、4.5%）、小学校教諭Ⅰ種（1名、0.6%）、その他（2名、1.2%）となっている。その他の資格は、介護福祉士（記述回答より）であった。

## 10) 職場での職務内容、地位

2歳児クラスへの配属が最も多く36.9%、次いで、1歳児クラス23.6%、混合・縦割りクラス17.8%、0歳児クラス9.6%と比較的低年齢児のクラスに多く配属されている。次に、4歳、3歳、5歳と続いている。フリー1名、その他は、一時保育室の担当（記述回答より）であった。

| 調査数   | 0歳  | 1歳   | 2歳   | 3歳  | 4歳  | 5歳  | 混合・縦割り | フリー | その他 |
|-------|-----|------|------|-----|-----|-----|--------|-----|-----|
| 157   | 15  | 37   | 58   | 7   | 8   | 2   | 28     | 1   | 1   |
| 100.0 | 9.6 | 23.6 | 36.9 | 4.5 | 5.1 | 1.3 | 17.8   | 0.6 | 0.6 |

## 11) 雇用形態

95.5%が正規職員である。パート3名、その他は、非常勤、臨時職員（記述回答より）であった。

| 調査数   | 正規職員 | パート | その他 | 無回答 |
|-------|------|-----|-----|-----|
| 157   | 150  | 3   | 3   | 1   |
| 100.0 | 95.5 | 1.9 | 1.9 | 0.6 |

## 12) 勤務日数 平均 21.9 日

1ヶ月の平均勤務日数は、21.9日である。20日以上25日未満が86.6%、25日以上が11.5%である。ほとんどの方が週5日勤務だが、週6日以上勤務している方が1割以上存在する。

| 調査数   | 15日以上<br>20日未満 | 20日以上<br>25日未満 | 25日以上 | 無回答 |
|-------|----------------|----------------|-------|-----|
| 157   | 1              | 136            | 18    | 2   |
| 100.0 | 0.6            | 86.6           | 11.5  | 1.3 |

### 13) 労働時間 平均 8.2 時間

1日の平均労働時間は、8.2時間である。8時間以上10時間未満が76.4%、8時間未満が17.2%、10時間以上が5.7%である。

| 調査数   | 8時間未満 | 8時間以上<br>10時間未満 | 10時間以上 | 無回答 |
|-------|-------|-----------------|--------|-----|
| 157   | 27    | 120             | 9      | 1   |
| 100.0 | 17.2  | 76.4            | 5.7    | 0.6 |

### 14) 残業時間 1週間あたり平均 4.4 時間

1週間あたりの残業時間は、平均4.4時間である。残業なしが15.3%、1分以上5時間未満が47.8%、5時間以上10時間未満が24.2%、10時間以上30時間未満が9.6%、30時間以上が1.9%である。

| 調査数   | なし   | 1分以上<br>5時間未満 | 5時間以上<br>10時間未満 | 10時間以上<br>30時間未満 | 30時間以上 | 無回答 |
|-------|------|---------------|-----------------|------------------|--------|-----|
| 157   | 24   | 75            | 38              | 15               | 3      | 2   |
| 100.0 | 15.3 | 47.8          | 24.2            | 9.6              | 1.9    | 1.3 |

## (2) 勤務している保育園

### 1) 所在地

愛知県名古屋市が61.18%と最も多く、静岡県静岡市28.0%、静岡県浜松市10.8%である。

| 調査数   | 名古屋市 | 静岡市  | 浜松市  |
|-------|------|------|------|
| 157   | 96   | 44   | 17   |
| 100.0 | 61.1 | 28.0 | 10.8 |

## 2) 設置主体

保育園の設置主体は、公立が 49.0%、社会福祉法人 50.3%である。

| 調査数   | 公立   | 社会福祉法人 | 無回答 |
|-------|------|--------|-----|
| 157   | 77   | 79     | 1   |
| 100.0 | 49.0 | 50.3   | 0.6 |

## 3) 園児数 平均 125.6 人

保育園に在籍している園児数の平均は 125.6 人である。100 人以上 200 人未満が 54.1%と最も多く、次いで 50 人以上 100 人未満が 24.8%、200 人以上が 12.1%、25 人以上 50 人未満が 6.4%である。

| 調査数   | 25 人以上 50 人未満 | 50 人以上 100 人未満 | 100 人以上 200 人未満 | 200 人以上 | 無回答 |
|-------|---------------|----------------|-----------------|---------|-----|
| 157   | 10            | 39             | 85              | 19      | 4   |
| 100.0 | 6.4           | 24.8           | 54.1            | 12.1    | 2.5 |

## 4) 職員数 平均 29.4 人

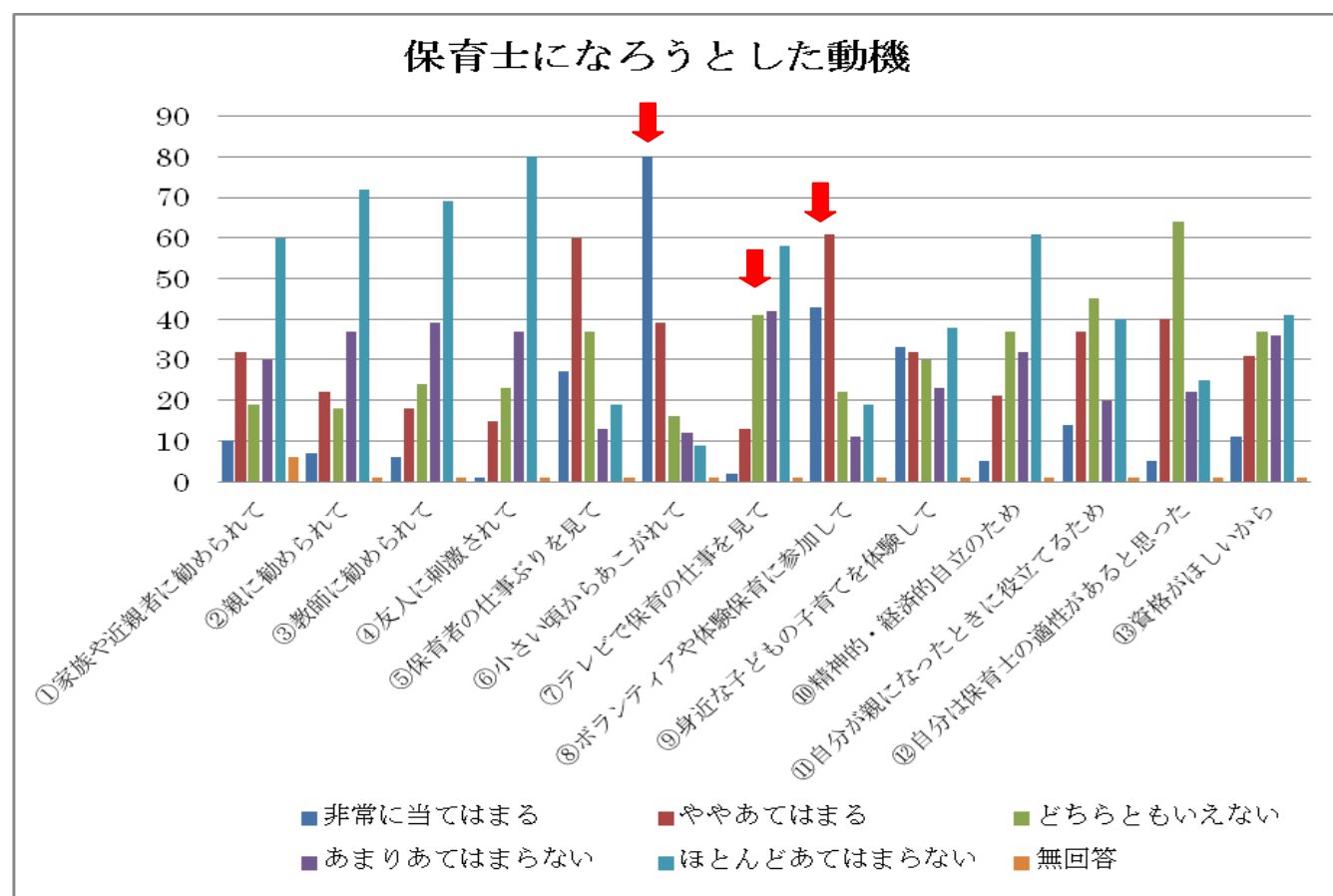
保育園に在籍している職員数の平均は 29.4 人である。30 人以上 50 人未満が 47.1%、20 人以上 30 人未満が 29.3%、10 人以上 20 人未満が 15.3%、50 人以上が 5.1%である。

| 調査数   | 10 人以上 20 人未満 | 20 人以上 30 人未満 | 30 人以上 50 人未満 | 50 人以上 | 無回答 |
|-------|---------------|---------------|---------------|--------|-----|
| 157   | 24            | 46            | 74            | 8      | 5   |
| 100.0 | 15.3          | 29.3          | 47.1          | 5.1    | 3.2 |

### (3) 保育に関する意識

#### 1) 保育士になろうとした動機

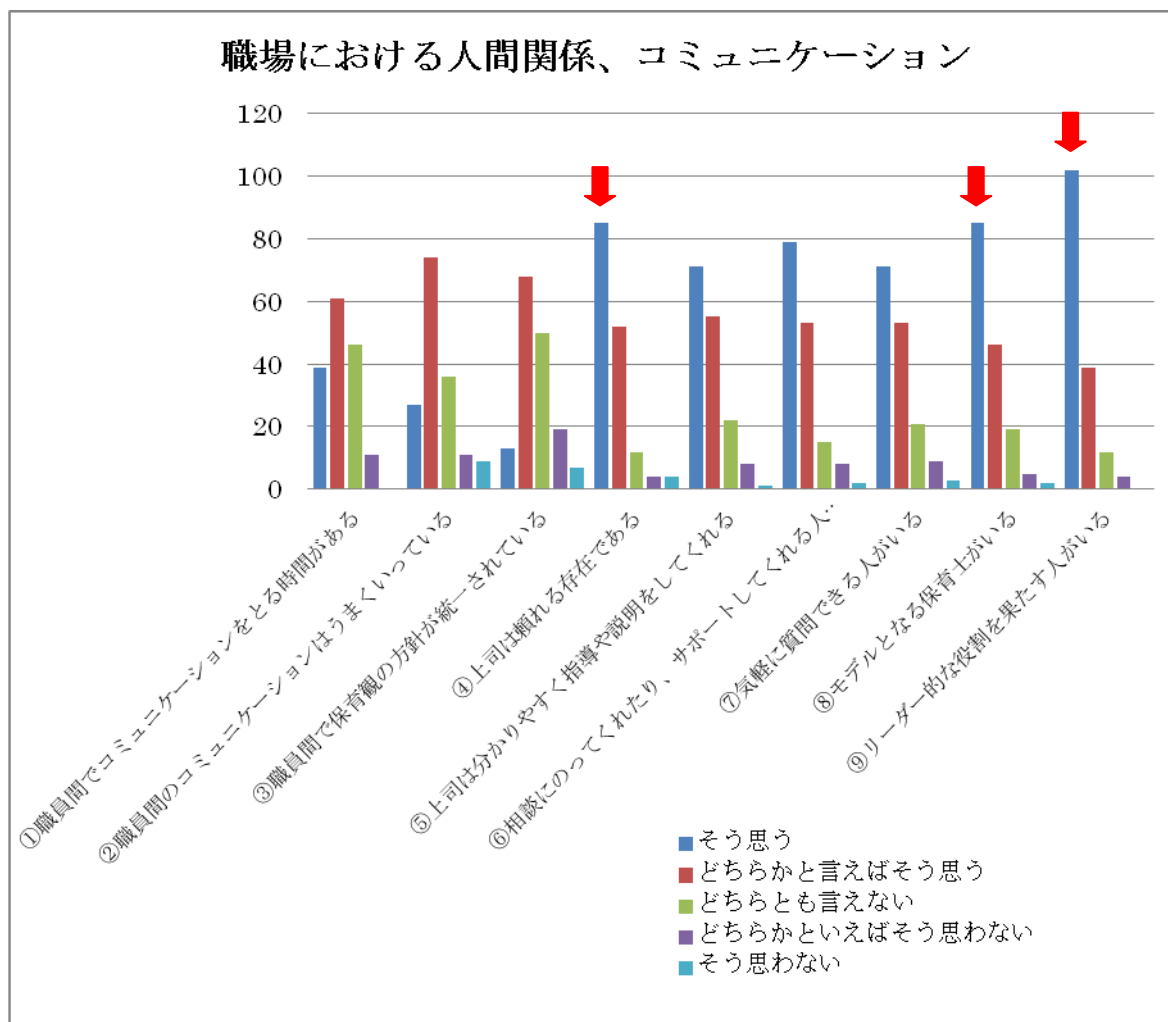
保育士になろうとした動機で「非常に当てはまる」「ややあてはまる」の合計が高い動機は、順に「⑥小さいころからあこがれて」「⑧ボランティアや体験保育に参加して」「⑨身近な子どもの子育てを体験して」である。一方、「あまりあてはまらぬ」「ほとんどあてはまらない」の合計が高い動機は、順に「④友人に刺激されて」「②親に勧められて」「③教師に勧められて」である。記述回答欄には、動機として「子どもが好きだから」「親が保育士だった。」「実習をしていくうちに保育士の仕事が素敵だと思った」等が記載されていた。





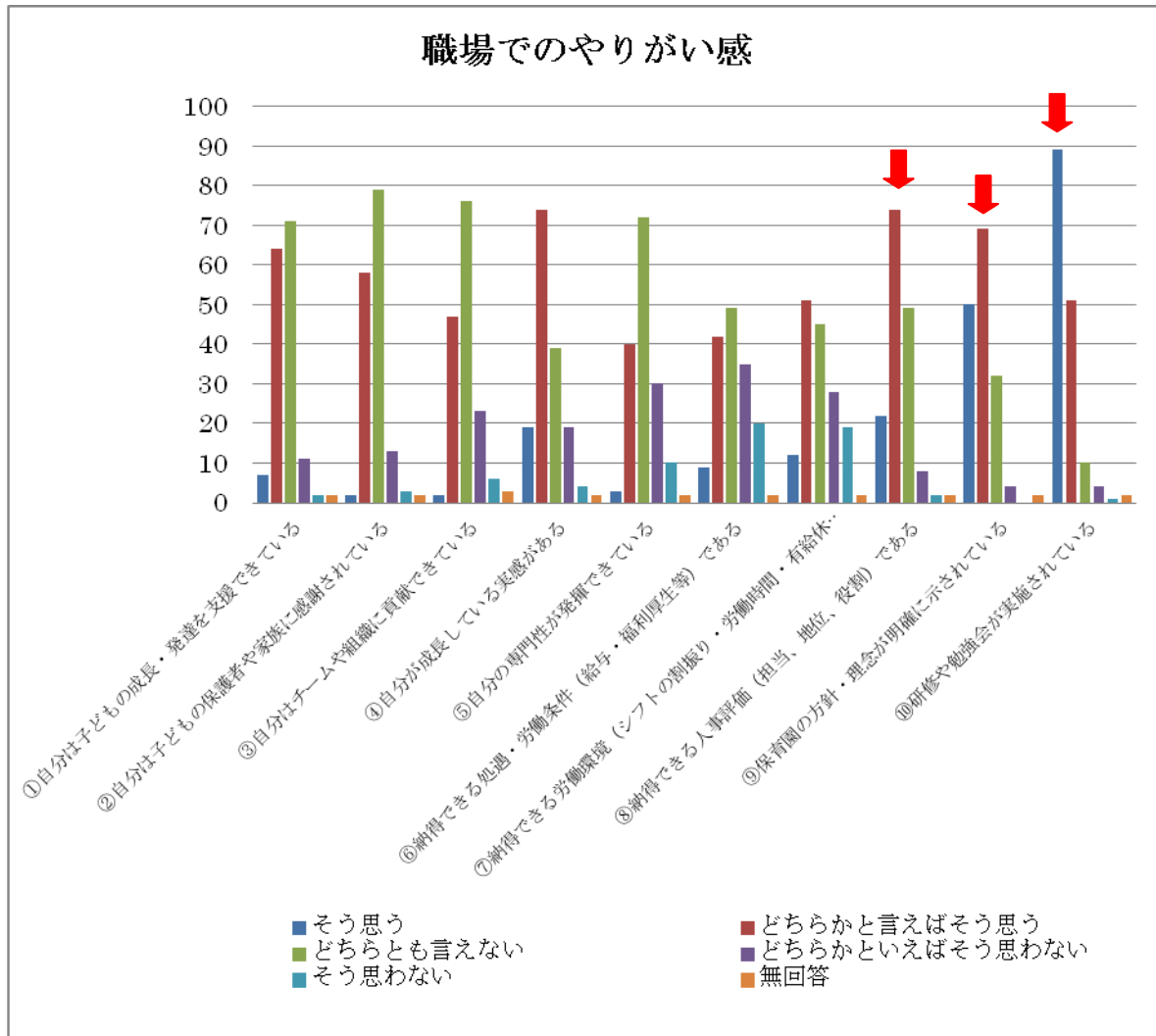
## 2) 職場の人間関係とコミュニケーション

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計が多い項目は、「⑨リーダー的な役割を果たす人がいる」「④上司は頼れる存在である」「⑧モデルとなる保育士がいる」である。一方、「どちらとも言えない」「どちらかといえばそう思わない」の合計が多い項目は、「③職員間で保育観の方針が統一されている」「②職員間のコミュニケーションはうまくいっている」であるが数は少ない。全体的に上司や職員に恵まれ、コミュニケーションがうまくいっている。



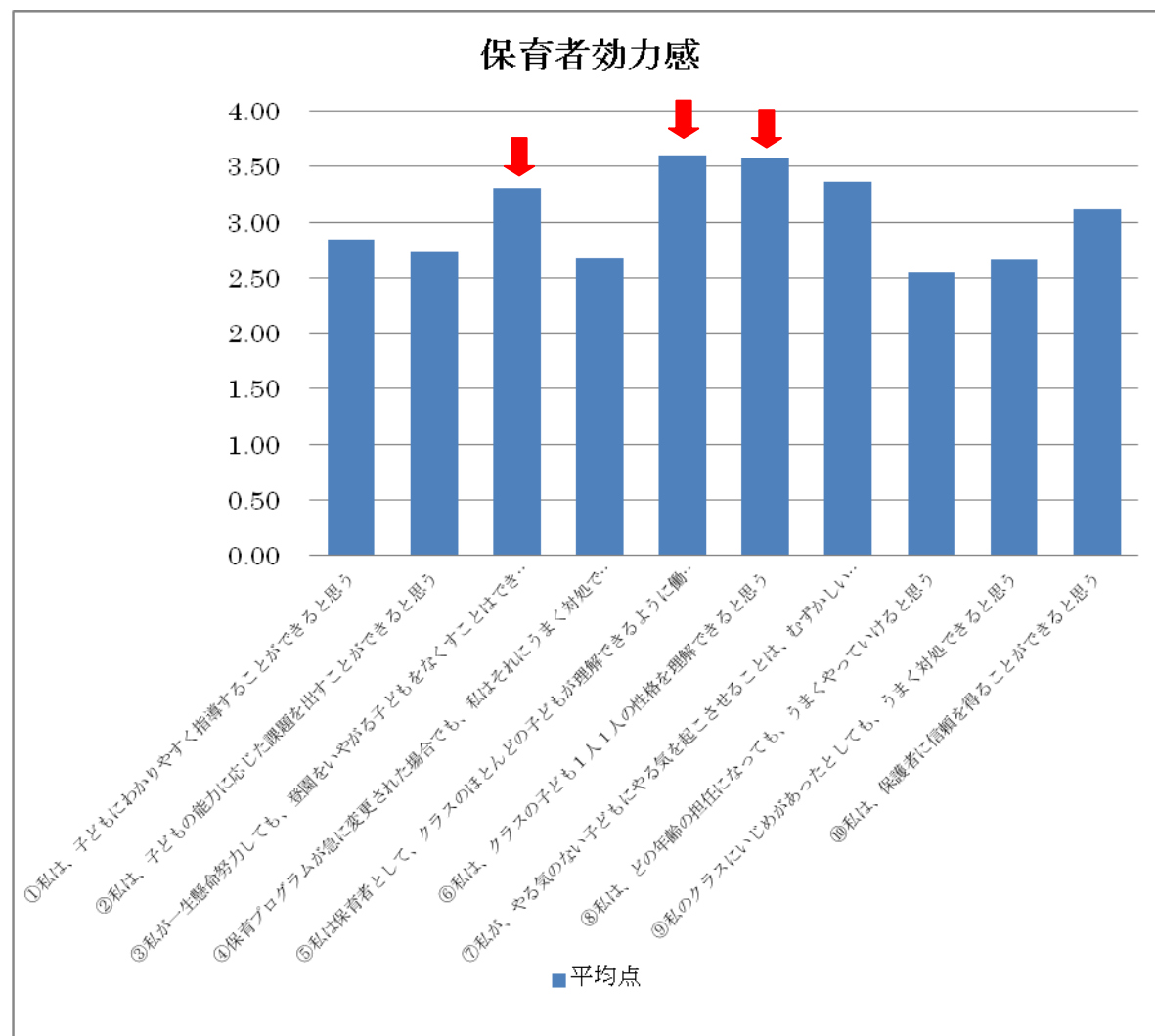
### 3) 職場でのやりがい感

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計が多い項目は、「⑩研修や勉強会が実施されている」「⑨保育園の方針・理念が明確に示されている」「⑧納得できる人事評価（担当、地位、役割）である」「④自分が成長している実感がある」である。一方、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計が多い項目は、「⑥納得できる処遇・労働条件（給与・福利厚生等）である」「⑦納得できる労働環境（シフトの割振り労働時間・有給休暇等）である。自分の成長を実感し、仕事にやりがいを感じている方が多いが、処遇や労働環境に満足していない方もいる。



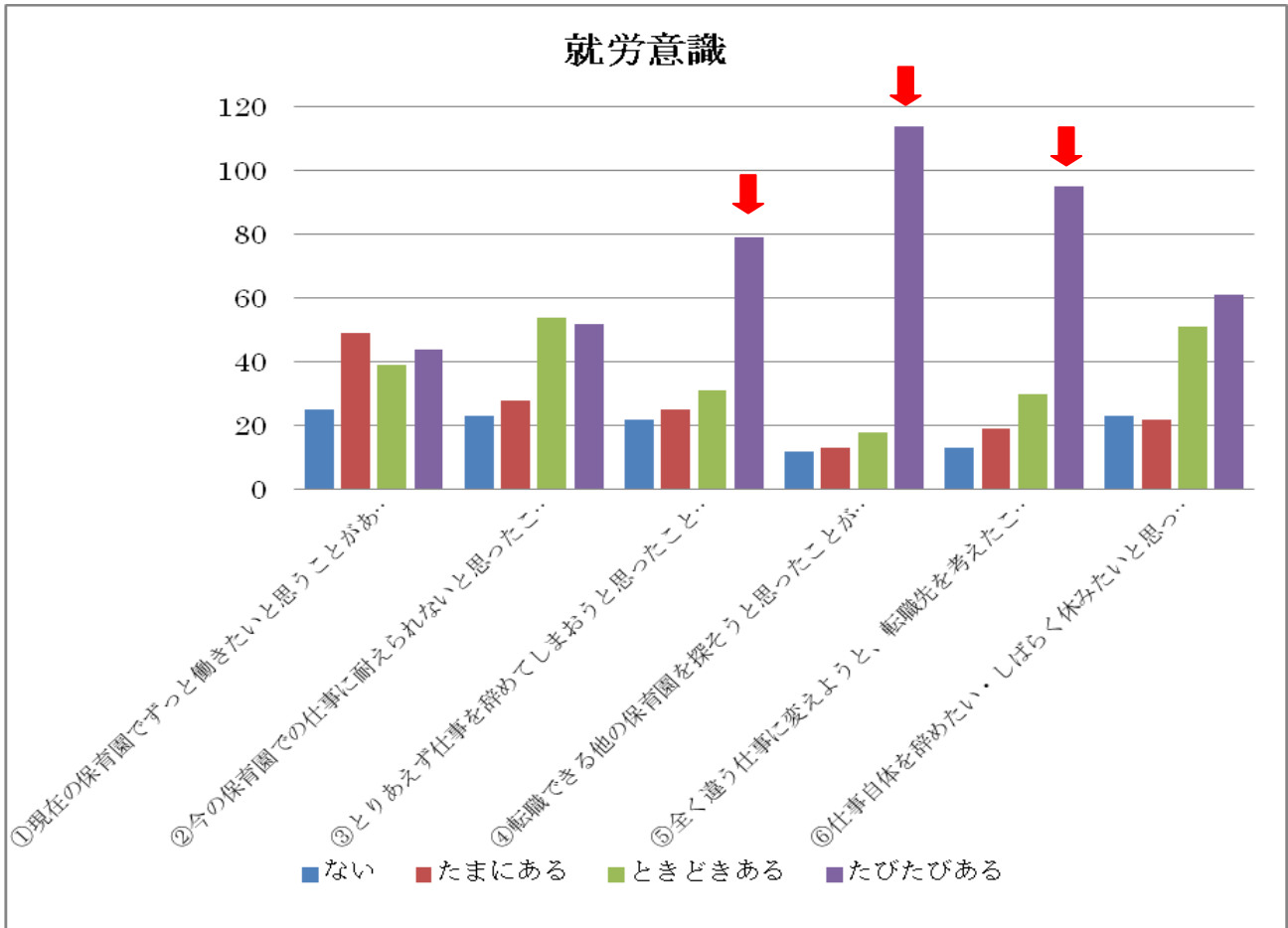
#### 4) 保育者効力感（反転項目③⑤⑦は計算方法を変えて平均値をだしている）

保育者効力感の合計得点の平均点は、30.39点（各項目5点10項目 満点50点）である。平均点が高い項目は、「⑤私は保育者として、クラスのほとんどの子どもが理解できるように働きかけることができる」「⑥私は、クラスの子ども1人1人の性格を理解できると思う」「⑦私が、やる気のない子どもにやる気を起こさせることができる」である。平均点が低い項目は、「④保育プログラムが急に変更された場合でも、私はそれにうまく対処できると思う」「⑧私は、どの年齢の担任になっても、うまくやっているとと思う」「⑨私のクラスにいじめがあったとしても、うまく対処できると思う」である。



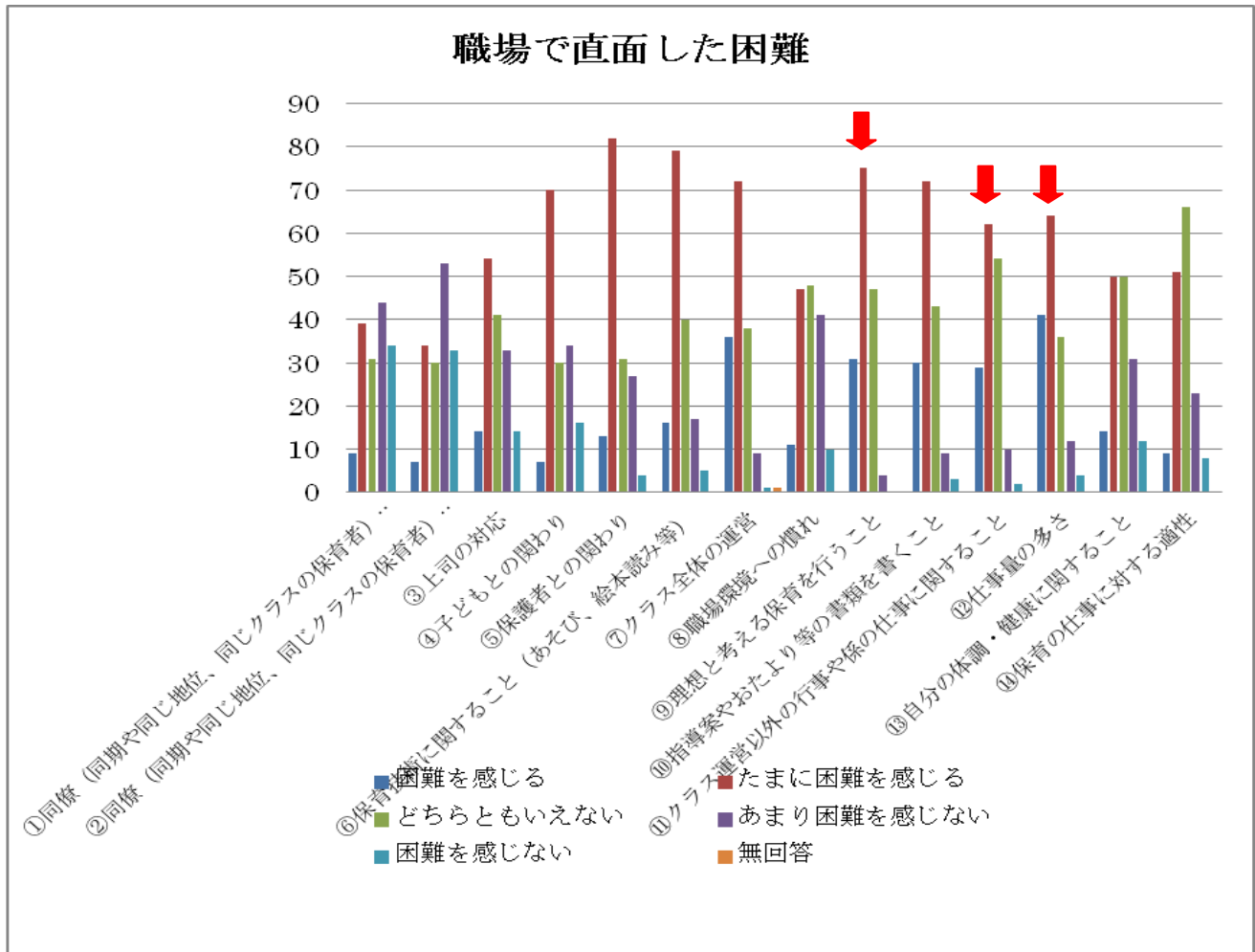
5) 就労意識

「④転職できる他の保育園を探そうと思ったことがある」や「⑤全く違う仕事に変えようと、転職先を考えたことがある」「③とりあえず仕事を辞めてしまおうと思ったことがある」という項目で「たびたびある」と回答している人が半数以上であった。



## 6) 職場で直面した困難

「困難を感じる」「たまに困難を感じる」の合計が多い項目は、「⑫仕事量の多さ」「⑪クラス全体の運営」「⑨理想と考える保育を行うこと」である。一方、「あまり困難を感じない」「困難を感じない」の合計が多い項目は、「①同僚との人間関係」「②同僚とのコミュニケーション」である。



## 7) これまでにもっとも困難と感じたこと

これまでにもっとも困難と感じたことは、多い順に「⑫仕事量の多さ」「⑦クラス全体の運営」「③上司の対応」「①同僚との人間関係」「⑤保護者との関わり」である。

6) では、困難をあまり感じない項目に「①職員との人間関係」があげられたが、もっとも困難と感じることにはあげられていた。

## 8) 最も困難と感じたこととその時の対応（記述回答 一部抜粋）

| 困難   | 対応  |
|--|---|
| <p>上司とのコミュニケーションが難しく私自身人見知りのところがあるため必要以上に緊張してしまいうまくいかない。自分の中で少しずつ会話に入るようにしているが私まで情報がまわってこないこともあり悩んでいる。</p>   | <p>自分から情報を得ようと他の保育士に伝えているところを聞いてできる限り把握できるようにしている。しかし実際は難しい。</p>  |
| <p>職員同士の人間関係、コミュニケーションがうまく取れなかったこと。</p>  | <p>自分が質問したい事や伝えたいことを整理してから話を掛け失礼のないよう言葉を選んで話す。</p>  |
| <p>仕事の量の多さ。毎日持ち帰りの仕事がある。新人教育で、1、2年目で任されることがたくさんあり、苦痛である。</p>   | <p>同期と協力しながら頑張っ乗り越えている。</p>   |
| <p>人間関係、死にたくなる、逃げたくなる、やめたくなる→このような考えの下、子どもたちに接するのが子どもたちにとって非常に申し訳ない。勤務時間（上がりの時間16:00～18:00）までに終わっても、実質19:30～20:00までは帰りづらい。「え・・・帰るの?」という先輩の目、朝6:30出勤、園を出るの20:00なんて日も週1～2回程度、休けい無し。もちろん、私だけじゃありませんが・・・若い人たちはそのような傾向です。</p> | <p>寝る。耐える。</p>  |
| <p>クラスを一緒に運営する先輩保育士との保育観や価値観の違い。</p>   | <p>学生時代の友人に相談した。もう一人のクラス保育士に相談した。</p>   |
| <p>仕事量が多く、自宅に持ち帰ったり休日もやらないと終わらないこと。2年目という立場で園の中の大きな研修の代表としての仕事を任せ、自園での園内研修の計画や運営、自園の研修内容をまとめて他園の代表の方々と研修を行っている。園内研修の内容を考えたりまとめたりすることが特に大変であり、また自分のクラス運営と同時の行うことが更に大変である。</p>   | <p>自分なりに仕事の優先順位を考え、“今やること”“また期限があるもの”とを分けて、やる仕事を分けるようにしている。一緒その研修をやっている副園長に常に相談し、助言を求めている。又、以前研修の代表をやったことがある先生にも相談し、助言を求めたり方向性を確認してもらってる。</p> |
| <p>嘱託さんとの仲が上手くいかない。自分の力のからまわり。嘱託さんの理想とのギャップ。上司からの仕事の見本となるような指示や体験がない。どのように子どもに指示を出せばいいか、遊びにさそうのか。</p>  | <p>園長との懇談。他の職員のフォローをうけた。直接ペアの先生にその事を伝える。1度だけ遊びの導入を見せてもらえるが、その後はなし。少人数、担当制なので他の職員がどのように接しているか、何をしているのかをみる。</p>                                 |

#### IV. まとめと課題

以上、東海地区における調査の集計結果を提示してきた。ここで、今回の結果と前回の結果との相違点や共通点に注目しながら考察をしていく。以下、26年度に行った東海地区における調査を「今回の調査」、25年度に行った東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県における調査を「前回の調査」と表記する。

今回の調査では、対象者の98.1%が女性、1.9%が男性、前回の調査はそれぞれ93%、7%と両市調査ともに女性が大半であった。年齢は、今回の調査は23.1歳、前回の調査は23.5歳とほぼ同じであった。

同居人数は、今回の調査は3.8人、前回の調査は3.3人であった。

保育士資格を取得した方法は、今回の調査は2年制の養成機関が最も多く45.2%、前回の調査は4年制の養成機関が最も多く51.9%だった。全国的に4年制大学進学者が増加していけば、今後東海地区においても4年制の養成機関で資格を取得する人が増えていくと考えられる。

保育園での実習回数は、今回の調査は2.2回、前回の調査は2.1回とほぼ同じであった。

保育士資格の他に保有している資格は、幼稚園教諭Ⅰ種か幼稚園教諭Ⅱ種のどちらかを持っている人が今回の調査は89.8%、前回の調査は85%であった。その他の保有資格は、今回の調査は社会福祉主事任用資格が幼稚園教諭に次いで多く4.5%、前回の調査は小学校教諭Ⅰ種が幼稚園教諭に次いで多く12%であった。

職場での職務内容は、今回の調査と前回の調査ともに2歳児クラスが最も多く、2番目に多いのが1歳児クラスだった。両地区とも新任保育者が担当するクラスは2歳、1歳が多いようだ。3番目に多かったのが今回の調査は混合・縦割りクラス、4番目に多かったのが0歳児クラスであった。前回の調査は3番目に多かったのが0歳児クラス、4番目が3歳児クラスだった。

雇用形態は、今回の調査は正規職員が95.5%、前回の調査は97.2%とほとんどの方が正規職員であった。

1ヶ月の勤務日数は、今回の調査は21.9日、前回の調査は21.8日とほぼ同じであった。また、両調査ともに月25日以上勤務している方が1割程度存在していた。

1日の労働時間は、今回の調査と前回の調査ともに8.2時間だった。

1週間の残業時間数は、今回の調査は4.4時間、前回の調査は3.5時間と約1時間の差があった。

保育園に在籍している園児数は、今回の調査は125.6人、前回の調査は107.7人だった。職員数は、今回の調査は29.4人、前回の調査は27.9人であった。東海地区の保育園の方が若干大規模であった。

次に、保育に関する意識の調査結果についてみていく。前回の調査は、主に記述式で回答を求め、今回の調査は質問項目を修正したり、回答方法を主に選択式とした。そのため、両調査を厳密に比較検討することはできないが、下記では、主に類似する質問項目についての考察をする。

保育士になろうとした動機は、今回の調査は「小さいころからあこがれて」が最も多く、2番目に多かったのが「ボランティアや体験保育に参加して」、3番目に多かったのが「身近な子どもの子育てを体験して」であった。前回の調査は「子どもが好き、小さいころからの夢」という回答が最も多く、2番目に多かったのが、「お世話になった保育士、幼稚園の先生への憧れ」、3番目に多かったのが「保育園でのボランティア、体験等」であった。両調査の結果を比較すると順位は異なるものの、動機の内容は類似していた。

保育者効力感（10項目 満点 50点）の合計得点の平均は、今回の調査は 30.39 点、前回の調査は 31.24 だった。各項目の平均点のうち高い項目は、今回の調査では順に「⑤私は保育者として、クラスのほとんどの子どもが理解できるように働きかけることができる」「⑥私は、クラスの子ども 1人1人の性格を理解できると思う」「⑦私が、やる気のない子どもにやる気を起こさせることができる」であった。前回の調査は高い順に⑥⑤⑦の順であった。上位 3 位の順位は異なるが同じ項目であった。

職場で直面した困難は、今回の調査では、多い順に「仕事量の多さ」「クラス全体の運営」「理想と考える保育を行うこと」であった。前回の調査では、多い順に「職員との人間関係」「子どもとの関わり」「保育技術」と両調査の結果は大きく異なっていた。今回の調査では、最も困難と感じたことについて新たに質問を設けたところ、多い順に「仕事量の多さ」「クラス全体の運営」「上司の対応」「職員との人間関係」であった。最も困難な事として「上司の対応」「職員との人間関係」が浮上したことは注目すべき点である。

今回の調査は新たに「職場の人間関係とコミュニケーション」「職場でのやりがい感」「就労意識」についての質問を設けた。結果はすでに示した通りである。多くの方が、上司や職員に恵まれ、コミュニケーションがうまくいっていると回答しており、「職場の人間関係」に悩んでいた前回の調査と異なる結果だった。しかし、今回の調査では、最も困難なこととして「上司の対応」「職員との人間関係」が上がっているのが一概に上司や職員とうまくいっているとは言いきれない。また、今回の調査では、「④転職できる他の保育園を探そうと思ったことがある」や「⑤全く違う仕事に変えようと、転職先を考えたことがある」「③とりあえず仕事を辞めてしまおうと思ったことがある」という項目で「たびたびある」と回答していた人が半数以上であった。つまり、多くの方の「離職意向」が強いといえる。

そこで、新任保育者の「離職意向」と「職場の人間関係とコミュニケーション」「職場でのやりがい感」や「上司の対応」等との関連について統計的に検証し、新任保育者の早期離職を防止するための方策を見出していきたい。今後の課題とする。

## 引用文献

全国保育士養成協議会（2009）「指定保育士養成施設卒業生の卒後の動向及び業務の実態に関する調査」報告書Ⅰ－調査結果の概要－保育士養成資料集第 50 号. 246.

厚生労働省（2011）「潜在保育士の実態について：全国潜在保育士調査結果」

（2015年6月3日 受理）